

アサーティブなコミュニケーションの要因についての研究

古 谷 有佳理

目 的

アサーティブなコミュニケーションとは、自分の意見も主張するが相手の意見も尊重する自己尊重のコミュニケーションである。本研究では、行動と心理的側面の2つの側面からアサーションを捉え、家族関係と家族環境がアサーティブなコミュニケーションに影響を与える要因であると仮説を立て検討を行った。

方 法

被験者は大学生269名（男性118名、女性151名）。質問紙は、以下の4つを用いた。①家族関係単純図式投影法（水島, 1978）。この投影法は、家族の心理的距離を測定するものとして使用した。②家族環境尺度（鈴木・松田・永田・植村, 1985）。③アサーション行動尺度（今井他, 2010）。④アサーティブマインドスケール（以下AMS）（伊藤, 1998）。

結果と考察

家族関係を、家族関係単純図式投影法（水島, 1978）を用いて分析を行った結果、現実の家族図式については「3者接近型」「母子接近型」「分散型」の3パターンが、理想の家族図式においては、「密接型」「3者間境界型」「3者間均等型」の3パターンが判明した。その後、家族の心理的距離とアサーション行動、AMSの関連について検討を行った。分析の結果、男性のみ家族成員がそれぞれバラバラな距離であると認知している方が、家族の距離が近いと認知している人よりも、自身から説得や交渉といった相手に歩み寄ろうとするアサーション行動を行う傾向があることが明らかになった。家族環境とアサーション行動・AMSにおいては、家族環境の感情表出性との間に多く関連がみられた。また、家族環境がアサーション行動と態度に与える影響を検討するために重回帰分析を行った結果、家族成員間の葛藤と家族の独立性は、AMSの自己表現に対する肯定的態度との間に有意な影響が認められた。このことから、アサーティブな態度と行動が家族環境から受ける影響については多少の差異があり、アサーティブな態度の方がアサーション行動と比較して、家族環境から影響を受ける傾向があることが明らかになった。今後の課題として、本研究では日本における家族環境について海外の質問紙の日本語の翻訳版を使用して調査を行った。しかしながら、感情の表出や独立性といった、日本の環境とは少し違うと思われる要因がアサーションと関連がみられ、実際の日本の家族環境を対象にしたとは言いにくい要素がある。このことから日本の家族について、再度定義を行い検証を行う必要があるだろう。また、本研究においては父親の距離のみに関連がみられ、母親とは関連がみられなかった。日本において、父親の存在は家族の中では孤立傾向にあると言われている（柏木, 2011）。この日本における父親の存在とアサーティブなコミュニケーションの関連については、今後も検証を行いたい。